

鶯宿亭

1916年に建てられたこの茶室は、常磐館の旅館や蒲郡ホテル（現・蒲郡クラシックホテル）の宿泊客をもてなすために数十年間使われていた。小さな茶室と、宿泊にも使えるより大きな待合室に分かれており、待合室の大きな窓から三河湾を眺めることができる。ここでの茶会に参加する前に、客は近くの六角堂で待っていた。

待合室は数奇屋風書院造りで、丸太の表面や土塗りの壁といった茶室建築の様式と、床の間や障子、畳といった和室のオーソドックスな要素が組み合わせられている。より小さく、より厳かな茶室は、庭から入るときに這うように入る低い扉が特徴的だ。このデザインは、もともと武士が茶会に出席する際に刀を抜かざるをえないという意図のもので、現在に至るまで茶室建築の特徴として残っている。

鶯宿亭は登録有形文化財である。2025年から宿泊施設になっている。